

校長研修だより235

どうしたら自信を持てますか？

2026・2・25 重枝 一郎

先日、弥永小学校6年生に対して、「重枝人生道場」という題で、卒業前に講演をしてほしいと依頼された。小学生相手は久しぶりだったので、ワクワクしながら行った。その教室には、せっかくだからということで、他の先生や、日佐中学校の先生、保護者も数人来ていた。保護者は本校J2の保護者で、本校でも話してほしいと言われた。私は、どんな伝え方が、小学生の心に火をつけるのかを、話しながら、その反応を見ながら、考え、講演をした。（※これが「行為の中の省察」校長研修だより207）

話としては、みなさんにも話したことのある「成長はたし算」の話をベースに、「異質のたし算マインド」、つまり「受け入れる力＝柔軟性」の大事さを語った。話の中で、人としての品格、あたたかい言葉のキャッチボール、いじめのこと等を関連付けて話した。小学生もよく反応をしてくれて、とてもいい時間になっていたと思う。

講演が終わって、校長室で、その学校の校長先生と話していたら、一人の小学生が「重枝先生に質問したいんですけど」と訪ねてきた。以下は、その時の会話である。

(小)「重枝先生、今日は面白い話をたくさんしてくれてありがとうございました」

(重)「おう！わざわざお礼を言えるなんて、すごいな」

(小)「先生の話で、元気は出たのですが、僕はなかなか自分に自信が持てなくて悩んでいます。どうしたら自信を持てますか？」

(重)「そうだな、例えば俺と君が4時公園集合って約束したとするやん。その約束を俺が平気で破ったら、君はどう？」

(小)「頭に来ます」

(重)「そうだよな。俺は君から怒られるよな。君という相手との約束、つまり相手との信頼関係を破ると、相手から怒られるから、なんとか約束を守ろうとするよね」

(小)「はい」

(重)「“自信”という文字を書いてみて。自信の“自”って何？」

(小)「自分？」

(重)「そうだね。じゃあ自信の“信”は？」

(小)「信頼とか、信用、信じるの“信”ですか」

(重)「そうだね。ということは“自信”って自分との信頼関係のことって考えてみて。相手との信頼関係は破ると相手から怒られるけど、自分との信頼関係は破っても、誰からも怒られないよね」

(小)「はい」

(重)「自信を持つということは、自分との信頼関係を守るということで、誰からも怒られないから、甘えてしまう。自分の中の約束は、結構簡単に破ってしまう。そんな経験ない？」

(小)「あります。今日は家に帰ってまず宿題をするって思っても、しなかったり、毎日1時間は机に座って勉強するって決めたのに、1日しか続かなかったり」

(重)「そうたい。自分との約束を守ることは、結構難しい。でも、自分との約束を守るのが“自信”ってことになる」

(小)「そうか。自信を持つためには、自分との約束を守ることが大切ってことなんですね」

(重)「そう思うよ。俺も昔、自分で決めたことをやり遂げた時って、なんか強くなれた感じがしたのをおぼえている。小さなことでもいいから、自分との約束を守ってみたら、自信が持てるようになると思うよ」

(小)「なんかスッキリしました。ありがとうございました」

彼の中では、おそらく、自信を持つためにすべきことは、はっきりしたんじゃないかと思った。自分の内側の約束を守ることが、自信につながる。小さなことでいいので、自分で決めるという経験は「自律的学習者」につながる。小学生年代で大切なのは、小さなこと、ささいなことの選択をさせることが大切だと言われる。

この話を私たちに置きかえてみると、私たちが自信を持つために、自分との約束のようなものがあるかということになる。クラス担任として、どんな約束が自分の中にあるのか？ 私の経験だが、下にしたような、自分との約束を守っていたら、生徒との関係に自信が持てるようになった気がした。参考にしてほしい。

- 朝全員の顔を見る。
- 生徒との小さな約束を守る。
- 勉強以外の雑談をする。
- 1日1人は深く話す。